令和2年度　刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会
第1回全体会議　記録

日時：令和2年１０月１５日（木）
午前 10 時00 分～午前 11 時 30 分
場所：刈谷市役所１０１会議室Ａ・Ｂ

出席者

団体名・役職等	氏　　名
名城大学・教授	昇　秀樹
一般公募	畑　和子
一般公募	大野　裕史
刈谷市自治連合会	深谷　晴紀
刈谷市公民館連絡協議会　書記	小川　行晧
刈谷市婦人会連絡協議会　会計	加藤　京子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院	長澤　勇夫
防災ママかきつばた　代表	高木　一恵
刈谷市ボランティア連絡協議会　副会長	矢田部　寿子
株式会社おたより　代表取締役	塚本　裕晶
愛知教育大学　教授	大村　恵
刈谷市小中学校長会	澤田　佳予子
刈谷市民ボランティア活動センター　センター長	米田　正寛

欠席者

一般公募	杉戸　真
文化工房かりや　代表	久保田　富士子
刈谷市商店街連盟　広報・ＩＴ委員長	鱸　裕介

事務局

所　　属	補　職　名	氏　　名
市民活動部	部長	岡部　直樹
市民活動部市民協働課	課長	石川　領子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	酒井　　聡
市民活動部市民協働課	協働推進係長	酒井　武士
市民活動部市民協働課	主任主査	下島　大樹
市民活動部市民協働課	主事	西村　亜津
ＮＰＯ法人ボランタリーネイバーズ	副理事長・調査研究部長	三島　知斗世
ＮＰＯ法人ボランタリーネイバーズ	理事・相談事業部ﾁｰﾌﾃﾞｨﾚｸﾀｰ	遠山　涼子
ＮＰＯ法人ボランタリーネイバーズ	協働コーディネーター	鈴木　孝廣

1　開会・あいさつ

（1）定刻になり、市民協働課課長が開会を宣した。

（2）委員長あいさつ

　コロナの影響で、５月に委員会開催を予定していたが中止となり、今回が第１回目となってしまった。非常事態「エマージェンシー」とは、“表に出てくる”が語源である。非常時にはものの本質が表れる。例えば、アメリカのコロナによる死亡率は黒人が高い。皆保険制度がなく、民間医療保険に未加入の場合、医療費が高額となり、医者にかかれないことが死亡率を高める一因となっている。このように、格差や貧困の問題が、コロナにより死亡率の差として明確に表れた。

　コロナにより明確になった問題をコロナと一緒に生きる時代にどのように解決するのか。まちづくり・NPO の活動もコロナで大きな影響を受けた。後半で皆さんの状況もお聞かせいただきたい。

2　議題

（1）刈谷市共存・協働のまちづくり推進委員会について

■資料P1～3を提示し、共存・協働のまちづくり推進委員会の運営体制、各部会の分担およびスケジュールについて事務局が説明

ア　運営体制

（資料Ｐ1／共存・協働のまちづくり推進委員会の運営体制）

・共存・協働のまちづくりを進める各主体の関係者を委員として設置。16 名で組織し、任期は２年。

・全体会とその下に、個別の施策に取り組む２つの専門部会として「コーディネーター部会」「夢ファンド部会」を設ける。委員は全体会のほか、いずれかの部会に属する。

イ　各部会の分担

（資料Ｐ2／共存・協働のまちづくり推進委員会部会分担表）

部会名	コーディネーター部会	夢ファンド部会
部会長	大村　惠	米田　正寛
部会員	畑　和子	昇　秀樹
	大野　裕史	杉戸　真
	深谷　晴紀	小川　行晧
	久保田　富士子	加藤　京子
	矢田部　寿子	長澤　勇夫
	塚本　裕晶	高木　一恵
	澤田　佳予子	鱸　裕介

ウ　開催日程

（資料Ｐ3／今年度のスケジュールについて）

・推進委員会２回、夢ファンド部会４回、コーディネーター部会２回。うち夢ファンド部会２回、コーディネーター部会１回を本日までに開催した。

■質問・意見交換

特になし。

（2）コーディネーター部会の協議報告について

■資料Ｐ4～8、別添資料を提示し、事務局より説明

（資料Ｐ4～6／コーディネーター部会の協議報告について）

・第１回コーディネーター部会を８月21日（金）に開催。
・まちづくりコーディネーター（以下、まちコ）派遣活動実績は５件。
・コロナの影響で中止していた定例会を10月９日（金）に再開した。
・まちコを対象にオンライン対応等についてアンケート調査を実施。結果を踏まえて、まちコ活動のオンライン化やオンライン化に向けた支援に関する研修の機会を設ける。

（資料P7～8／新型コロナウイルス感染症による活動への影響についてのアンケート）

・ボラセンに登録する約500団体を対象に、コロナによる影響に関するアンケート調査を10月10日（土）に送付した。アンケート結果を基に、定例会や交流会で対応を検討する。

（別添資料／まちづくりコーディネーターチラシ）

・まちコの活動内容を幅広く紹介するために、具体的な活動事例を掲載する改訂を加えた。
・チラシの活用としては、つながりづくりに悩む現場に情報を確実に届ける方法の工夫や、地域に働きかけて依頼数の増加につなげるなどの意見が提案された。

■質問・意見交換

【市民活動団体向けアンケート結果の公表】

委　員：団体向けアンケートの結果は、まちコ定例会などで検討するだけでなく、公表してはどうか。他の団体の考えや対策を知ることは参考になる。

事務局：当初はまちコの活動を促すことを目的としていたが、部会においてもまちコ活動に限らず、コロナの影響をふまえ、幅広くニーズを確認してはどうかとご意見をいただいた。来月頃までに集計結果がまとまる予定で、次回のコーディネーター部会で報告を予定しているが、さらなる活用について検討を重ねたい。

委　員：次回の部会で報告予定とあるが、緊急性のある課題であり、市民団体やまちコのみなさんから、挙がった声を受けて、今年度の取り組みに反映できるとよい。まちコ定例会での検討を反映させて、市としても支援に取り組んでほしい。

事務局：まちコ定例会は今月から再開し、来月からオンライン参加を取り入れていく。アンケートの結果を見て、オンライン会議に限らずコロナ禍における活動の変化について、まちコのみなさんと一緒に考え、なるべく早く対応していきたい。

【活動の継続を支援】

委員長：商業ほどではないかもしれないが、コロナのまちづくり活動への影響は大きい。対人の活動が多く、対策がとれずに休む選択をする場合もある。休むことはあっても、辞めるのは思いとどまってもらいたい。一度辞めたら、立ち上げ直すには大変な労力がかかる。いつでも再開できるような状況をつくることが、まちにとっての資産となる。調査によって把握したことについて、どのように取り組むかについてスピードが求められる。今あるNPOが解散しないよう配慮をお願いしたい。

委　員：まちづくり活動団体からボラセンに寄せられた相談の中に、お菓子の製造販売をしている団体でイベント出展がなくなって売り上げがなく困っているというものがあった。別の団体ではバザーを中止して、収入源を寄付で補おうとしている。センターで販売したり、事業の賞品にしたりしているが、事業が回るようにするためには緊急を要する。現在、デンソーがプロボノチームとして団体への支援に取り組んでいる。そういった深刻な状況もあるので、まちコの知恵も借りたい。

事務局：福祉事業所への支援について、庁内でも購入を呼びかけている。まちコによる支援はハード面では難しいが、まちコ同士で知恵や工夫を出し合いながら、定例会等の機会に話を進めたい。

委員長：困っている団体の具体的な情報を共有するだけでも意義がある。例えば、ネットなどで今日はこれだけお菓子があるので購入してほしいという情報を流すことで、手が挙がるかもしれない。まちコから必要な人へつながりが広がればさらによい。情報に限らず、困っている人同士が困

り事を共有し、補完し合う体制を非常時を契機に作っておくことにより、平時にもネットワークとして機能するような方向性を検討いただきたい。

（3）夢ファンド部会の協議報告について

■資料 P9～11を提示し、事務局より説明、募集説明用動画を一部視聴

（資料 P9～11／夢ファンド部会の協議報告について）

・第１回夢ファンド部会を７月１日（水）に開催
・コラボ７０補助金採択事業のうち、１６件中 11 件が実施予定時期を変更した。実施期間を来年度まで延期することを内部で検討しており、最終的に実施できない場合も準備費用は補助対象とする。
・募集説明会・実績報告会の中止に伴い、代わりとなる募集説明用動画を制作し、市ホームページや YouTube にて配信した。掲載動画は採択団体の協力を得て展開し、閲覧の機会を広げる。
・第2回夢ファンド部会（コラボ７０補助金事業追加審査）を７月２０日（月）に開催
・地域応援ソングを市民参加で制作することにより、地域に元気を取り戻す一助としたいと相談があり、特別にコラボ 70 補助金の追加審査を行った。補助申請額は 100 万円。
・審査の結果、採択とした。審査委員長講評として、コロナ禍にあり、市民を励ます応援歌はタイムリーな企画であり、全国へ向けて展開し相乗効果に期待を寄せるとコメントされた。
・現在までに、応援ソングはほぼ完成し、ボーカリスト２名、ミュージックビデオ 60 件の応募から選考中である。

（令和２年度夢ファンド部会申請状況について）

・９月30日（水）締切。まちづくり活動支援事業３件。うち１件が、昨年度に引き続き２回目の申請である。

■質問・意見交換

【実施スケジュールについて】

委　員：コラボ７０補助金事業のスケジュール変更について、来年度に延期したとしても本当に実施できるのか。コンサートなど、多くの人に参加してもらう事業は依然として難しいのではないか。リモート対策や距離の確保など対策をとると、申請内容と大きく異なると思うが、どのように取り扱うか。

事務局：実施内容が変わる場合は事前の相談を求めている。団体からは丸１年ずらして同じ季節にやりたいという要望が多い。来年度実施できるかどうかは不明だが、状況を見ながら各団体検討を重ねている。感染状況は刻々と変わる中、判断は難しい面はあるが、長い目で見て団体にとって良いやり方を模索し、一緒に考えていきたい。

委　員：大局的に見て支援してほしい。団体によっては既に実施できているところもあるが、その中での苦労もある。イベントを舞台に事業を行おうとしたが、イベント自体が中止し、申請事業をやりたくてもできないなど苦労が見受けられる。団体ごとの事情を配慮いただきたい。

【募集説明動画について】

委　員：募集説明動画は、今回はコロナ対応であったが、来年度も継続してほしい。共通情報を活かし、年度で異なる内容は部分的な更新を重ねれば、今の素材を活用できる。内容は分かりやすい。

事務局：募集説明会に参加者が少ないという課題もあり、動画を作成した。音声には年度や数字は用いず、スライドの変更で次年度以降も対応できるよう工夫した。これを一つの糧として、よりよく PR できるものを継続してつくりたい。来年度以降の動画の更新方法については検討する。

委員長：改善が必要な点は対応し、継続していただきたい。会場に足を運べない人が映像を見て応募することもある。コロナを契機にグレードアップした対応として良いことである。

3 その他

（1）委員よりコロナ禍における活動状況について報告

委　員：NPO 法人で介護・福祉事業をしている。居宅介護の中に移動支援（外出を支援する事業）があるが、3月ごろからストップし、収入が半減し運営に困った。公共交通での移動は利用者の方も控えていたが、９月ごろから外出したいという声が増えてきた。ヘルパーは市街地には行きたくないという人が多く、いつ緩和するか迷っている。市内の他法人に問い合わせたところ、近隣は再開しているが、名古屋への移動は中止している状況と聞く。

委　員：自治連合会では、行事を中止するといった話が多い。連合会として各地区の行事を調査して一覧表にまとめた。高津波地区では、県・市から要請があったものは自粛したものの、緊急事態宣言解除以降は、参加者が納得できるような対策（室内イベントを屋外に変更、手の消毒を徹底）をして実施した。市内全体では、例えば敬老会の式典は 23 地区のうち３地区しか開催しないなど、やめているところが多い。

委　員：公民館の行事も中止しているものが多い。部屋の使用料収益を元に、盆踊りや敬老会など催しを行っているが、収入が半減し、公民館の事業費を賄えなくなっている。

委　員：婦人会連絡協議会の行事も中止が続いた。その中でもやれることを考え、ボラセンやプロボノの協力を得てオンライン会議の勉強会を開催。パソコン、スマホに慣れていない方が多く、LINE はできても zoom はハードルが高かったが、最後には早くオンラインで交流したいという声が多く出てきた。オンラインを活用して、いかに活動していくか考えていきたい。

委　員：4、5 月は活動の場である交通児童遊園が閉まったので、おもちゃ病院の活動を中止していたが、再開後はむしろ利用者が増えた。先週は 100 件以上おもちゃの修理が持ち込まれ、休みの期間を取り戻す勢い。子どもが家の中で遊ぶことが増えたことから、おもちゃの修理依頼が増えた。無料で実施しており、皆さんに喜んでもらえることが幸せである。また、幼稚園・保育園へ出張修理を実施。子どもに接している人たちは、安全に保育する上で、苦労が増えているように見受けられる。

委　員：碧南市市民活動センターは、利用者は７割減、相談件数は６割減、4、５月は８割減でなかなか戻らない。ワクチンが開発されるまでは第３波も心配され、この状況が続くと捉えている。オンライン会議のミニ講座を 10 回以上開催しており、関心が高い。まちコ定例会を 10 月、半年ぶりに開催できた。昨年度、プロジェクトマネジメント講座の実践として開催したボッチャ交流会のふり返りを行った。企画書を作り検討を重ねて盛り上がったので、まちコの参加につなげようとした矢先にコロナの影響を受けた。来年１月 30 日にまちコ交流会をオンライン開催することを予定し、11、12 月定例会はオンラインで進める。新しい生活様式であるオンライン対応は、まちコとしてしっかり身に着けていきたい。

委　員：防災ママかきつばたでは、2、3月から Zoom を使った防災講座を主催してきた。今ではほぼ毎週オンラインの勉強会や情報発信をしている。８月末からは YouTube などでライブ配信も始め、多くの人が見てくれて手ごたえを感じている。オンラインの可能性をかみしめている。

委　員：ボラセンは５月は一切の施設利用を禁止し、窓口対応のみとした。活動が全くできない中でどうしたらいいかという相談があった。総会のため印刷したいという団体もあったが、作業室を休止していたので影響があった。今も定員を半分にする対応をしている。作業室も一度の利用は３人までとし、湯沸室は使用禁止。事業は、８月からオンラインで開催。人数を制限して来館を受け入れる講座もある。事業の参加者は高齢の人が多く、オンラインへの抵抗感はある。講座の参加者には、事前にオンラインの教育を受けてもらい、当日参加していただくというやり方を継続している。利用者は昨年比６割減。人数制限をしている影響もあるが元に戻っていない。

委　員：小中学校は３月から５月まで休校となり、学校現場も経験のないことであるが、子ども・家庭も大変だったと思う。通常に近い授業形式に戻ったが、子どもたちが友達に会いたかったのがよく分かった。不登校はこれまで増加傾向にあったが、休校が明けて不登校であった児童生徒が登校したケースも多かった。３か月の中で自分を見つめ直すなど心の影響があったためと思われる。その後もずっと登校しており、良い影響の一つとして紹介したい。学習面の遅れは、行事をやめて授業に集中し、８月末までに取り戻せた。子どもたちにとって行事も必要。中止ではなく、感染リスクを抑えながら実施する方法を話し合い、知恵を絞った。修学旅行や体育大会なども実施。中学校６校は修学旅行を９月に終えた。今年は特に子どもたちがうれしそうで、例年よりもかけがえのない１泊２日となり、実施してよかった。学校は地域の感染状況に影響される。地域に拡大すると、学校は密が避けられないため防ぐことが難しい。コロナの収束を日々願っている。

委　員：大学では、前期はオンデマンド方式のオンライン授業にしたが、学生の評判は良くなかった。教員や学生同士のコミュニケーションが取れないことへの不満がある。実験や、資格習得の授業でのフィールドワーク実習などは対面で実施した。後期は対面式、オンライン、ハイブリッドとし、各々3 分の１ずつの割合。学生は孤立しがちで、体感的に 5%くらいの学生がモチベーションが落ちるなどの傾向が見受けられる。大学との関係だけではなく、社会的な関係が閉ざされて交流もなく、情報も入らない中で地域に出たり、社会的な関係を結んだりすることが少なくなっており、学生の育つ環境としては良くない。今年度から「NPO と学校」という講義でボラセン・米田さんにお話しいただいた。感染症対策には注意しつつ、学生が地域に出ていけて、社会的な活動に触れられる機会を作っていきたい。

委　員：新聞配達店では集金業務など対面を減らす、業務を短くするなど改善していったが、折り込み広告が減って収入は半減に。生活支援のため行っている地域の御用聞きは８月以降で利用が増えた。長寿課と連携して、買い物代行やお墓参りなど支援を行う。大学生のスタッフとはオンライン面談が増えた。人との関わりが減っていることで、空いた時間を自分の生きがいにとボランティアの応募をしてくれる学生が多い。検温など対策をして、今月から支援に出かけてもらう。PTA では、会議をやめて資料をオンラインで共有するなど仕組みを変えた。小学６年生の子どもが修学旅行に行けた。おやつを交代制で食べるなど不便もあったが、とても楽しそうだった。体育大会は半日になったが、以前から「1 日開催は大変」という声も聞いていたので良かった面もある。コロナをきっかけとして変化できた面として、プラスに捉えている。

委　員：ボランティア連絡協議会は８月まで活動を中止していたが、東日本震災支援の取り組み「咲かそうひまわりの輪プロジェクト」から再開。２月の研修会は再開に向けて動いている。また、高齢者施設のイベントやサロン活動が停止しており、ボランティア活動ができていない。一人暮らしの高齢者のお顔を見られないのは心配なので、来年２月にサロンを開催。飲食なし・時間短縮・座席の距離確保など対策をとる。活動の機会が少なくなっているので、わかば会の活動をいかに継続するか考えていかなければならない。

委員長：前期はウェブ講義、後期は 200 人未満の講義は対面式に戻った。オンライン、ウェブ講義により 6～7 割は代替対応できている。オンラインに移行した対応は進歩だと思うが、他方、世界中で起きているロックダウンという手法は１世紀前と変わらない。遠くない将来、検査の精度、体制整備が進み、陽性の人は保護し、陰性の人は社会活動を継続して、ロックダウンしなくても済むようになることを期待する。その結果、経済への影響も低く抑えられる。今後コロナ禍が続いても、その中でも活動を続けられる状況を作り出すことが重要。工夫の積み重ねがウィズコロナの生活様式につながる。

（2）市民協働課よりご連絡

<u>ア　日本女性会議のお知らせ</u>

事務局：11 月 13 日（金）～15 日（日）で開催。毎年 2,000 人ほど集まるイベントで、今年はオンライン開催。現在、参加者募集中で学生は無料なので呼びかけていただけるとうれしい。上野千鶴子さんの基調講演など内容も充実している。分科会では刈谷で活躍する人も登壇予定。

<u>イ 今後の開催日程</u>

第２回推進委員会　　令和３年３月 17 日（水）13 時 30 分　刈谷市民ボランティア活動センター

以上